

馴象俗談

全

洋学文庫

文庫8

C 145



雅俗
書

馴象俗談

林門 井上通熙

著

爾雅小。南方乃黃。黃者。梁山之象。聖人
 之。終。南。越。交。趾。山。谷。之。此。獸。何。佛
 書。め。伽。那。那。先。六。牙。六。牙。春
 秋。運。斗。樞。虞。衡。志。本。草。綱。目。及。後。之。傳。不
 更。象。八。瑞。光。星。其。精。一。一。奇。異。志。大。象。力。也。
 垂。耳。鼻。牙。舌。尾。同。一。一。見。之。

川泉谷

讀書心得之記
 一可成丁寧ニ讀ベキ事
 一破損及塗黒スベカラズ
 一又貸ハ一切嚴禁之事
 一火ノ上ニテ心々讀ベカラズ
 一讀書中中央迄讀候節
 心々採ヲ入置ベシ決シテ
 本ヲ折ベカラズ
 右之條箇々相守可申者也
 藤井氏藏書

芻豆甘蔗酒氏好く。根火獅子巴蛇を畏す。
 犬乃夢を嚙り。変趾の象以て。一
 一なづ象を捕る。石牢法はり。乃
 を一方不あせ。その内よ芻豆かどを
 入き。牝象
 此能訓ある氏を角に飼せ。甘蔗を道
 筋よ補せ。野象来く。甘蔗を喰ふ。そ
 りは
 に牝象氏放せ。彼より野象随ひ来り。と。
 牢れ肉入る。その時人といふ。大石を
 牽り

口反悔して。幾日と控置。野象をのづき。飢
 るが。牢乃を。色を。牝象不食。彼あ。これ
 だ。野象も赤糲と餅をもむ。を待入。杖
 走。場を。野象法なり。それともか。あ。ま
 ば。人象と。は。か。の。久。ま。入。老。飼
 色。人。乃。に。あ。を
 は。ま。象。奴。を。終。なり。
 象を。鉄鉤を。象乃。頼。

右乃方へはふりたは。既の在り鉤爪打牙を。右
 此方へつらふら。顔の左へお牙を。既へは行
 へ。額へおこく。或へ厚るめら。鉤爪及牙。便
 或へ地不伏へ。或へ跪せんとおり。小村へ。鉤爪を
 既。腦を。おる。痛。バ。鳴。く。漸。成。さ。る。と。り。お。お。
 象ハ聲。深。き。も。り。と。り。か。り。久。し。と。り。お。お。
 象。を。象。奴。を。と。り。れ。ど。既。を。候。く。右。乃。前。足。を
 踏。も。と。り。お。こ。り。人。踏。も。く。登。り。象。の。村。ハ。象。起。て

仍こなる。南蠻。此國。王。と。帝。に。象。を。養。ふ。事。あり
 列。を。養。ふ。是。故。に。中。西。へ。象。皮。遣。は。し。時。を。養。
 鞍。城。を。と。り。牽。來。る。今。此。に。三。の。象。を。
 け。り。付。て。鳴。の。考。ま。よ。り。か。あり。その。象。皮
 覆。我。象。を。し。り。或。へ。懸。逆。の。人。お。れ。ど。象。に。殺。殺
 あり。は。け。ね。る。と。さ。ふ。く。神。象。ハ。氏。象。ハ。酒。を。熟。
 す。故。香。肉。園。を。酒。來。く。酒。を。破。く。ぬ。ま。み
 飲。も。上。田。畠。と。り。た。お。り。て。長。年。に

造る。或ハ其皮を長く截く。乾くもむれば杖に
格うしろのこ甚望しんぼう——ゆるや。抑おさくく萬物の靈たまかれ
たところか。亦また奇數きずう抜ぬけかいんはままにつふ
る。亦また思おもひはるる事ことらう。

嶺たけ表ひょう録ろく異い。楚そ越ご乃の阿あ比ひ象しやう。青せい惡ご——。
西方せいほう拂ふ林りん大だい食しき園えんめけ。白はく象しやう多た——こなり。
左さ氏し傳でん。吳ご中ちゆう王わう。楚そをを攻せう。付つ吳ご北ぺい務むを
亦またせくなるとと振ちんらうりももま。楚そ王わう乃の深しんくて象

中ちゆう尾び之の炎えん燄えんををつまとと。吳ごの陣じんへへ放はな守しゆれい象
ハハ中ちゆうををつまかかももつつ。吳ご乃の陣じんせんせんここなくなく敗さい北ぺい
亦また漢かんの母ぼ也也。呂り陽やうめめとと王わう莽まう中ちゆう光くわう氏しの戦せん
にに象しやうはは瀕べんとと決けつららまま——ここかかりり。大だい宛えん身しん毒どく
乃の國こくととらら象しやう——ああてて合がっ戦せんすすとと。漢かん也也も
見みええずずらら。

明めい室しつ雜ざつ録ろく。唐たう乃の玄げん宗そう。音おん樂らく不ふああいいせせてて象しやうを
絲し——とと入いるる事こと。好こうととあありり。安あん祿ろく山さん謀ぼう反

志と云。玄宗於後唐をせきす。後祿山は彼を
 其家象せしむ。成あり。先。捕ふをそ。後へと。年
 せん。一。ふれ。象。も。り。わ。一。だ。に。目。氏
 い。か。一。少。と。切。も。だ。祿山を。あ。一。こ。ま。ま。に。
 祿山。大。一。怒。と。玄宗。此。寵。を。成。さ。り。あ。り
 一。一。と。あ。坑。不。埋。殺。あ。り。是。故。に。白。樂。天
 が。詩。を。も。努。自。祿山。終。不。拜。誰。知。守。義。加。仁
 人。一。と。り。

三國志。一。吳の孫權より。二。魏。魏。氏。魏の太祖
 一。魏。魏。一。き。も。る。と。大。祖。が。ん。と。と。一。と。象。氏。を
 一。と。り。人。と。あ。り。ま。ん。を。百。官。養。一。迷。惑。一。
 一。あ。り。あ。る。と。ま。と。か。も。り。あ。一。大。祖。が。王。子。食。餅。
 六。七。歳。か。ん。た。も。養。と。り。ま。れ。字。の。大。祖。に
 象。氏。の。せ。と。ま。あ。水。を。切。り。あ。一。中。を
 一。と。り。象。氏。あ。り。り。あ。と。一。此。朝。ま。と。あ
 乃。切。る。程。地。の。物。は。入。と。り。あ。一。ま。地。の。物。を

何子作目也。をり多くとあれば大祀感懐
志多ふらなり。

又いそく諸君孔明賊を討く敵討く陣已
きれば呉乃孫権二乃象を蜀兵劉禪へはる
し孔明の功伐賞せしむなり。

西域記し一人乃僧道あそ多く此象に逢
りおる後しく心の側なる本人のなり。遊居
ありしに象を傷れ登りし本はあそを

し僧徒員く林中不法を切かるん是か
疵ある象伏しみなり。僧は向く苦痛を救
ふこと。おけしきかたを傷よりてくる
に竹刺しをく疵をさしきれば僧をあそま
ししおのひ。扱とさしむ。衣の裾後をさしむ。
疵はつて之傷りしければ象とおどろりたて候ひ。一
乃今持函を傷れ扱きしを僧と弄吳を
ねとて候なり。しそはひくく。佛舍利

かたりやうや。

法顯記に述維羅衛王の佛生於此より東に
行くと五由旬ありてこの藍莫やとの國あり。そ
王寶塔を修り佛舍利を安んずるに塔
造らるる所也。他あるもこの國に塔を造
夜守後よりある。大物修象どもと來りて身
をて水取吸りて地よりくき音を以て
らりて修造ししをれを法蘭西人

法顯の記に塔を修りしをれを法蘭西人
と云ふ。象修をくきを以て音を以て
かたりやうやと云ふ。法顯の
記に塔を修りしをれを法蘭西人
と云ふ。象修をくきを以て音を以て
かたりやうやと云ふ。法顯の

山川地異之河南府の象在焉。石象あり。
是ら漢の世より天竺に沙門象の佛經をつぎ
て海陽の持來しに。象はわふと化

阿比大務使家来りて。田代耕一（うら） 転（か）き
 利（き）會（けい）稽（けい）の馬（うま）五（ご）乃（の）初（はつ）とて。象（ぞう）あつまらて耕
 作（さく）方（かた）とたり。是（こゝ）皆（みな）智（ち）徳（とく）と感（かん）せしむる
 有（あ）し。
 瑞（ずい）應（おう）國（こく）。王（おう）志（し）道（どう）成（じやう）の多（おほ）く。既（すで）下（か）を平
 かなれた。世（よ）家（け）延（えん）考（こう）は。系（けい）を。員（いん）と。来（き）りし
 阿（あ）比（ひ）。援（えん）神（しん）契（けい）とて。阿（あ）比（ひ）持（ぢ）とて。百（ひやく）寶（ほう）
 との如（ごと）く。白（はく）象（ぞう）の。昔（むかし）象（ぞう）の。我（われ）

國人（こくにん）五百（ごひやく）一代（いちだい）。後（ご）小（せう）松（しょう）院（いん）中（ちゆう）御（ご）宇（う）。德（とく）永（えい）十五
 年（ねん）。小（せう）南（なん）密（みつ）より。象（ぞう）使（し）を。まの如（ごと）く。今（いま）又
 阿（あ）比（ひ）を。率（すふ）此（こゝ）。御（ご）代（だい）乃（の）。若（わか）く。此（こゝ）の如（ごと）く。
 意（い）小（せう）乃（の）。廣（くわ）南（なん）乃（の）。貢（こう）と。ゆゑ。けき。

馴象俗談 終

馴象俗綖跋

是歲廣南致馴象我

國子祭酒林先生獻詩賀之且命通熙曰
方今四海祇順

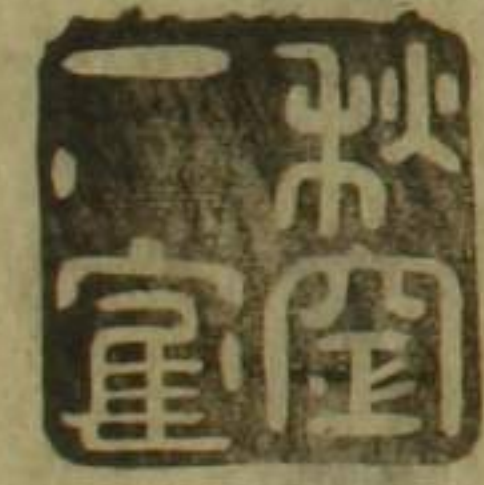
德意外邦來貢奇歎當是之時都邑閭里
坐而觀之者雖感其流貌巨體然或未能
信其聽言承教也是故為問之者略叙其
由譯之以倍語則可通熙退而著此篇且

述所聞於

先生者如此

享保己酉夏六月十五日

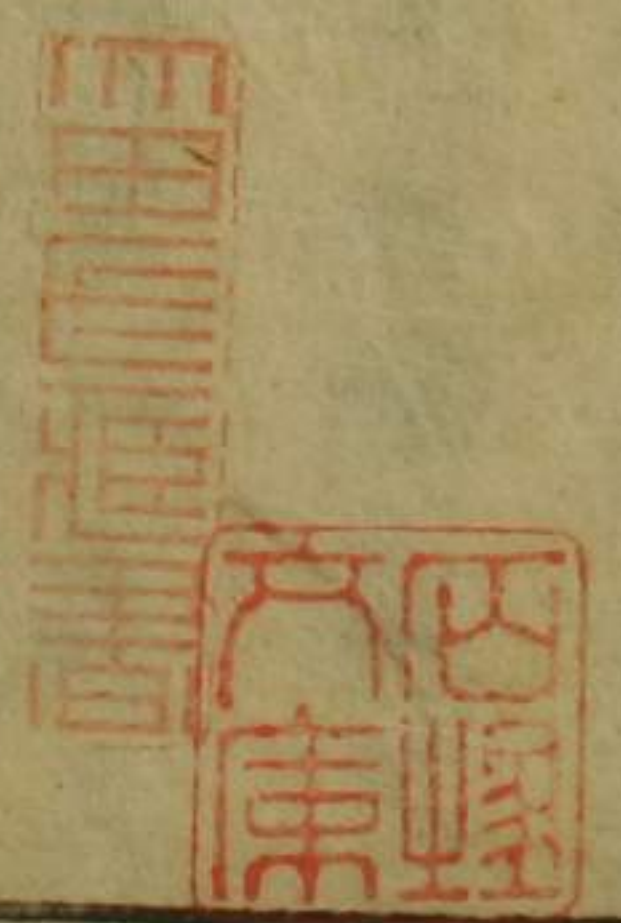
井上通熙 謹識



享保十四年己酉夏六月穀旦

御書肆

松會堂壽梓



Small red seal and faint handwritten text at the bottom left of the page.

